

## 令和7年度森林吸収源インベントリ情報整備事業中国・四国ブロック現地講習会報告

<開催日> 2025年6月18日(水)

<時間> 8:30~16:30

<場所> 岡山県新見市(格子点ID:330050)

<受講者> (株)一成 (4名)

<講師> 山下、細川(森林総研四国支所)、今矢、鳥山(森林総研立地環境研究領域)

### <場所の概要>

ダム湖近傍に位置する民有林で調査を行った。中心杭からおおむね東西方向が谷筋となる地形で、斜面下部はスギやヒノキの植林地で斜面上部は広葉樹林であった。西側と東側地点は巨礫のため土壌調査地点を移動させた。南側地点では巨礫があったが地点移動をせずに土壌調査を行うことができた。

### <講習会概要>

今回は未経験や5年ぶりなど様々な経験歴の受講者を対象に講習を行った。土壌調査方法について重点的に指導した。西側地点では岩の間に土が溜まった場所で調査を行った(写真4)が、下層では土壌の量が少なかったため、化学分析用と定体積用を兼ねるVBC試料の採取を行った。このような特殊な場合の土壌調査や試料混合、野帳への記入方法について確認した。

### <指摘事項>

- ・ 林相の写真撮影では、北、東、南、西の順に撮影するように指導した。
- ・ 立枯木の高さ計測時に先端が折れて隣の立木に引っかかっていた(写真3)。このような場合、折れた所から木の先端までを含めて計測するように指導した。
- ・ 土壌断面の写真は有機物層厚の確認にも用いるので、堆積有機物採取枠の手前1/3程度が入るようにすること、色が飛ばないように注意することを指導した。
- ・ 化学分析用土壌試料採取の方法とブロックサンプリング法は異なることを説明し、原則として化学分析用土壌採取は斜面傾斜に沿って行うことを指導した。なお、ブロックサンプリング法は円筒採取が不可能な場合の方法で、深度全体の石礫率を反映するように位置とサイズを決定する。
- ・ 堆積有機物を採取する際、スギは判別が難しいが、葉の部分が多ければK、少なければTとすることを指導した。
- ・ 円筒試料採取について以下の点を指導した。①円筒試料の攪乱を防ぐために面積の大きい平ごてを挿しこみ、周囲の土を切り崩してから抜くこと、②正確な試料採取のために円筒試料の整形では剪定鋏の刃の大きい面を土壌にあてること、③採取対象以外の土壌混入を防ぐために円筒土壌を袋に移す際は円筒外側の土壌をよく取り除くこと。
- ・ 南側地点の土壌断面では巨礫が前に突き出して写真では大きく映ったが、断面での面積(石礫率)は小さかった(写真5)。このような場合、上記の内容が伝わるように、スケッチと記載

で補足することを指導した。

<全体講評>

今期事業が5年目となり、担当者の調査における工夫が随所に見られ感心した。今年も高温が続くと予想されているため、水分と塩分補給を十分に行って無理なく作業をしてもらいたい。



写真1 出発前の荷物の確認作業



写真2 東西南北のラインを引く様子

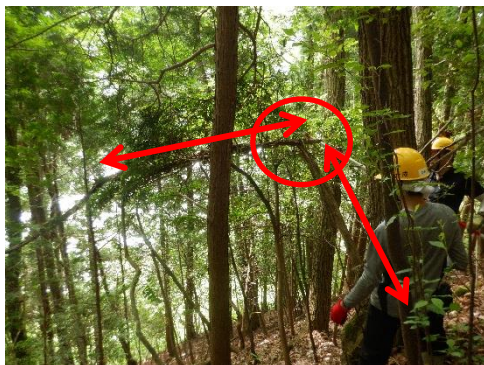


写真3 枯死木調査の様子

赤丸の部分で折れているが、赤線部分を  
足し合わせた長さが高さとなる



写真4 西側地点の土壌



写真5 南側地点の土壌

赤丸は突き出した礫、手前と奥で大きさが違う



写真6 試料の混合と野帳確認